

刊行にあたって

著者	星野 勉
出版者	法政大学国際日本学研究所
雑誌名	国際日本学
巻	2
発行年	2005-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/00022562

『国際日本学』（第2号）刊行にあたって

星野 勉

本研究報告集は、文部科学省21世紀COEプログラム「日本発信の国際日本学の構築」を推進するメンバーの2004年度の研究成果を収録したものである。

文部科学省21世紀COEプログラム「日本発信の国際日本学の構築」は、国際日本学研究所、野上記念能楽研究所、沖縄文化研究所など本学の研究機関を中心に、教育機関である大学院国際日本学インスティテュートとも緊密に連携しながら、推進されている。そして、この事業全体を統括する機関が国際日本学研究センターである。

また、国際日本学研究所は、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア部門）プログラム「日本学の総合的研究」にも同時に取り組んでいる。

私たちの目指すところは、国内外の日本文化理解の共通の基盤を探求することを通じて、国際的に通用する日本学を構築することにある。国外においても日本や日本文化への関心は高まっているが、そこにはしばしば誤認や誤解も見受けられる。しかし、それでは、国内の研究者は他国の人々が日本文化を理解するための手がかりを提供する努力をしているであろうか。残念ながら、わが国の日本文化研究は、方法論的な意識の欠如と内向き志向とのゆえに、他国の人々（研究者）にとって必ずしも開かれたものとなっていないと言わざるをえない。ここに、国の内外に開かれた国際日本学の構築が必要とされる理由がある。

国際日本学を構築するにあたり、私たちは「自文化」をあえて「異文化」視するというスタンスをとる。他国の研究者が日本文化を研究する場合、当然それを「異文化」として考察するわけであるが、私たちは、国外の研究者の視点を私たち自身の視点と摺り合わせ、日本理解の差異を際立たせると同時に、その差異の意味を解明することに着手した。このような作業を通じて、自文化研究が陥りがちな狭隘さからの脱却を可能にすると同時に、内と外との開かれた学問的な対話を可能とするような方法（「メタサイエンス」）の確立を目指すことになる。「国際日本学の構築」ということで私たちが意図しているのは、このようなことである。

「異文化」視するという視点から日本文化を見直してみると、安易に「日本」というかたちでひと括りすることを許さない、国境を超えた拡がりや歴史的な重層性のもとに日本文化の多様な相貌が現われてくる。私たちは、日本は単一の民族からなる文化的にも均一な社会であるというこれまでの見方・考え方に対して、日本文化の国際性、重層性、多様性に注目することによって、その特殊性と普遍性とを解明していきたいと考えている。

現在、私たちは、国際シンポジウム、研究会などを通じて、内外の研究者とともに研究活動を展開しつつあり、その成果を、本報告集以外にも、『国際日本学研究所研究報告』、『国際日本学研究紀要』などの出版物によって世に問うている。また、研究情報の交換、学問的な対話のために、内外の研究機関・研究者との交流・連携のネットワークの形成を進めている。